

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 21 日現在

機関番号：33804

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24659331

研究課題名(和文) 離島で働く保健師の現状とネットワーク形成の意義

研究課題名(英文) Network formation of public health nurses in the remote island.

研究代表者

小池 武嗣 (KOIKE, Takeshi)

聖隷クリストファー大学・看護学部・助教

研究者番号：70345495

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、離島の保健師に焦点を当てたものである。約20箇所の離島の保健師にアンケート調査を行い、それぞれの地域保健における各分野での共通点や周囲のサポート体制などの内容をカテゴリー化してまとめた。同時にインターネットを通じて離島の保健師のネットワーク化を行うことで、それぞれの地域保健活動に有意義なコンテンツとして活用できるかどうか、今後の研究課題である。継続的に離島の保健師のネットワークを運営して、サポートしていくことが重要であるため、今回の成果を基に研究を進めていく予定である。

研究成果の概要(英文)：This study is intended to focus on public health nurses of the island. It underwent a questionnaire survey for the island of about 20 locations. Common point and in each community health, it was the categorization such as ambient of the support system. At the same time by performing a network of public health nurses of the island through the Internet, whether it can be used as a meaningful content to each of the community health activities, it is the future of research. And operates a network of public health nurses of continuously island, because it is important to continue to support, it is planned to proceed with research based on the current achievements.

研究分野：成人看護

キーワード：保健師 離島 ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

我が国の国土は、6,852 の島嶼により構成され、このうち本州、北海道、四国、九州と沖縄本島を除いた 6,847 が離島とされる。

国全体の総面積は 37.8 万km²で、うち本島(前記の 5 島)が 36.2 万km²、離島は 1.6 万km²、国土全体の約 4.2%である。このうち、離島関係の法律で指定された 314 の有人離島(面積 7,594 km²)に、69.2 万人が住み(平成 17 年国勢調査)、これは、全人口の約 0.5%に当たる。平成 12 年に比べると、4.5 万人、6.1%の減少となっており、長期的にも減少傾向が続いている。

小さな離島などでは高齢化も顕著であり、住民の健康サービスの充実が望まれている。

しかしながら、そのサービスの提供者である離島の保健師の離職率はきわめて高いのが現状である。

こうした背景のなか、雑誌などにおいて、離島の保健師をテーマとした特集や、様々な角度から離島の保健師に焦点を当てた研究も行われるようになってきた。

そのなかで、離島の保健師がどのような諸問題を抱えているかについて、いくらかの議論がなされているが、いかにして離島の保健師を守っていくのか、また、どのようなアプローチをしていけばよいのかといった部分に焦点を当てた研究はほとんどみられない。

2. 研究の目的

本研究は、離島で働く保健師に焦点を当てたものである。離島の保健師は離職率が高く、地理的条件により、外部との連携をスムーズに行うことができない。

私は実際に 2008 年 6 月～2010 年 3 月の期間(約 2 年間)沖縄県の離島、座間味村(人口約 900 人)で保健師の仕事に就き、離島の保健師の苦悩を経験した。

現在の現役で働いている離島の保健師の実態調査を行うことにより、どのような社会背景、心理状態で離島の保健師を職業選択したのか、または現在抱えている離島の保健師ゆえの苦悩、悩み、ストレスを明らかにし、離島の保健師のより効果的なネットワークの形成を目的とする。

そして、今後、離島の保健師がその地域で長期的にかつ円滑に保健活動が行えるように必要な基礎資料となりうるよう、継続調査、研究を進めていく予定である。

実際に 314 の有人離島における保健師の実態調査を行うことで、保健師の安定的な住民サービスの提供に向けたよりよい環境作りのための離島ネットワーク形成を目的とする。

少子化社会で、過疎化が進んでいる離島地域において、離島の保健師をより効果的に安全に活用していくためにも様々なサポート体制が必要である。

様々な社会背景を持つ離島において、離島の保健師には、社会経験が豊富であること、

モチベーションが高いことなどが求められる。経済低成長時代の現在、それらの観点により、より質の高い、離島の保健師を増加させることは、離島の住民の生活の質の向上にとって重要であると考えられる。

3. 研究の方法

全国の離島で働いている保健師約 500 人の中で、本研究に調査協力を得られた方を対象とする。

データ収集方法は以下の通りである。

(1) 郵送によるアンケート調査、半構成的インタビュー調査を行うため、インタビューガイドを作成。

・アンケート調査

基本的属性：年齢、最終学歴

対象者を取りまく環境について：所在地、既婚の有無

離島の保健師を選択した最初のきっかけ
最終的な決断に至るまでに行った行動の過程

きっかけから、最終的な決断に至るまでの思考の過程

離島の保健師ゆえの悩み、ストレスなど

(2) アンケート調査により、離島の保健師の協力濃霧の把握後、現状を面接により、聞き取り調査する。

・半構成的インタビュー調査

各離島での保健師の現状(人数、配置など)

離島の保健師を取りまく環境について

離島の保健師に関する島内の問題点

離島の保健師に望むこと

(3) データ分析方法

郵送によるアンケート調査・半構成的インタビュー調査の内容分析に関する文献を参考に、ペレルソンの内容分析に基づき、以下の手順で分析した。

離島の保健師を職業選択する時期の行動及び、思考に関する部分を、それぞれ文脈単位として抽出する。

文脈単位として抽出したものを、記録単位とし、対象者の表現を用いて要約し、初期コードを作成する。

初期コードを一般的な用語となるように、一般的コードを作成する。

行動・思考に関する一般的コードを内容の類似性から、類型化し、サブカテゴリーを抽出し命名をする。

サブカテゴリーをさらに類型化し、カテゴリーを抽出し命名をする。

カテゴリーをさらに類型化し、分類に命名をする。

類型化したものを、それぞれ行動パターン・思考パターンとし、文脈単位のなかでの組み合わせに基づいて対応させ、行動パターンと思考パターンの関係性を検討する。

(4)分析の信頼性・妥当性の確保

データの分析を筆者の他、数名の研究者にすべての項目において、筆者と同様に行ってもらい、スコットの式を使用して、一致率を70%以上に確保する。

スーパーバイザーとして、離島医療に関する研究を行っている研究者に、分析内容を確認した。

研究の対象者に対し、分析方法、分析内容について、妥当性を確認する。

(5)倫理的配慮

調査内容などの個人情報や研究のみに使用すること、研究の成果を公開するときは、個人が特定されないように配慮すること、研究の拒否や途中辞退が可能なこと、またそれにより何ら不利益を被ることがないことを説明する。説明の方法は、調査依頼時・調査施行時に文章にて行う。

4. 研究成果

約 20 箇所の離島の保健師にアンケート調査を行い、それぞれの地域保健における各分野での共通点や周囲のサポート体制などの内容をカテゴリー化してまとめた。

離島医療に対する医療従事者の意識の向上 離島への就職希望の増加

離島の保健師の連携 島同士の住民の連携にもつながる

離島の保健師の孤立感を解消 離職率の低下

離島の保健師間の情報交換の充実 住民サービスの向上

離島の保健師の現状把握 離島の保健師へのサポート体制の見直し など

同時にインターネットを通じて離島の保健師のネットワーク化を行うことで、それぞれの地域保健活動に有意義なコンテンツとして活用できるかどうか、今後の研究課題である。

少数の離島の保健師のインターネットを利用したサイトとして「しまな～す」(<http://homepage2.nifty.com/malenurse/shimanurse1.html>)というサイトを、今回の調査で得られた結果を基に作成し、同時に運営を開始した。

「日本全国の離島の保健師がその地域性などにとらわれず、情報・意見の交換、お互いの意識の共有を円滑に行う」「離島の保健師の今後の可能性を考えていく」「社会に向けて、離島の保健師の存在をメッセージしていく」などを目的として、インターネット上の活動(離島の保健師同士の交流の場の提供、離島の保健師を志望する学生への相談窓口の設置など)が中心であるが、会の組織化を具体的に調整し、社会的な活動を行っていくように準備を進めている段階である。

継続的に離島の保健師のネットワークを

運営して、サポートしていくことが重要であるため、今回の成果を基に研究を進めていく予定である。自分自身が経験した離島の保健師の経験のすばらしさを、多くの医療関係者または一般の人々に理解してもらえるように、社会的なアピールも継続して行っていく予定である。

<参考文献>

1)国土交通調査室：離島振興の現況と課題 調査と情報 - ISSUE BRIEF - No.635 2009

2)日本離島センター：日本の島ガイド「SHIMADAS」2004

3)新井 信之，渡部 幹夫，新井 平伊，渡邊 喜代子，吉尾 卓：離島の精神科医療と精神障害者支援の状況：65 離島を対象としたアンケート調査からみえてきたもの 順天堂医学 52(1)，103-110，2006-03-31

4)新井 信之，渡部 幹夫，渡邊 喜代子，浅沼 奈美，吉尾 卓：離島に勤務する保健師による活動の方向性：三宅島の精神保健福祉活動と家族の状況 医療看護研究 2(1)，95-101，2006-03

5)上原 ます子：季節変動の大きい山間地域における訪問看護と保健師活動(特集へき地・離島の看護と保健活動)-- (ルール・リモートエリアにおける訪問看護と保健師の活動) 保健の科学 48(9)，675-679，2006-09

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://homepage2.nifty.com/malenurse/shimanurse1.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

小池 武嗣 (KOIKE, takeshi)

聖隷クリストファー大学・看護学部・助教

研究者番号：70345495